

相濟元のとく首桶ニ納メ相濟る首ハ座禪堂ニ勤番

一 御家之一番手上田主水殿御番頭寺西雅樂天野保助大竹迄出張十四日九時揃

一 攻懸見合被 仰出草津村邊ニ宿陣

一 十六日

御惣督様御著途中御迎ひ御斷相成御著已前御宿陣ニ若殿様御出御待請大殿様御持病ニ御不參

一 十七日御入組御方と御一統へ御逢ニ兩殿様御出

一 今日長州ノ奸賊の首六ツ持參と申事跡々數首持參ト云又ニ罪人を引出候共申取沙汰ニ御座候

一 十八日稻葉殿御著

一 今十九日岡山侯御著と申事

昨日承り備前と七八日比ニ至り俄ニ御宿陣御頼之使者入來諸事至る遅

々不評ニ

一 前廉々市中に此度

御惣督様御入組と全く 御公務の御備ニ付物價高直ニ仕候るに御國耻

ニ後候間彼是相辨へ正路之商方いふし候様御觸示し有之候処中ニ格外之義有之右才之者三四人召捕相成其後諸品正札付ニ被 仰出日々相場くるひ候品と日々相場町役所へ申出聞届之上正札付候様相成申候

○ 京都おゐる

御所に被

仰立之由十一月廿六日便寫來同晦日著

謹み奉言上候毛利大膳家來志道安房儀當月十三日藝州廿日市と申所迄罷出申達候と當七月京都おゐる暴動および候罪科益田右衛門介福原越後國司信濃三人之首級持參仕實檢ニ備立宜差圖有之様仕度旨松平安藝守家來迄申立候右と右衛門介始存命候ハ、生活之儘爲差出筋合之旨安

藝守を以先達不申談候趣未相達内斬首持出候付右首級廣嶋國泰寺に護
 送之上同寺に差置警衛爲仕置臣慶勝備一昨十六日廣嶋表に著到仕候付今
 日右衛門介始首級實檢仕候処相違無御座候且右暴動およひ候參謀大膳
 家來安戸左之助馬脱力佐久間左兵衛竹内正兵衛中村九郎義於國許斬首申井久
 坂義輔寺嶋忠三郎來嶋又兵衛義と暴動之節於京都相果候旨安房申立候
 就夫右衛門介始三人之首級實檢濟之上吉川監物に差遣申候右等之趣幕
 府に申達候付依之奉言上候誠恐敬白

十一月十八日

前大納言慶勝

○大御番組陣場奉行某々文通之内藝州宿陣方子十一月十八日未刻御宿陣
 おろく益田右衛門介はじめ三人首級
 御實檢被遊候次第于時藝州老臣淺野右近宅に
 前大納言様御著陣入側ニ南ニ御立被遊御右之方ニ御同間ニ御老中稻葉
 美濃守小具足モミ烏帽子太刀帶之候儘著座少し跡ニ大目付永井主水正

戸川鉦三郎著具同様御左之方隼人正殿又左衛門殿新左衛門殿外記殿嘉
 十郎殿著座尤何を後小具足後口鉢卷隼人正殿ニモ烏帽子著冠右跡之方
 ハ御側御用人大御番頭御用人列座御右之方御椽側近松彦之進寺町弥五
 左衛門本多忠左衛門御目付久野長一轟鉦五郎中川勝藏飯島斧吉寺山鞆
 負御徒目付組頭青山小右衛門御固役ニ御右庭之方御幕外ニ首警衛とし
 て石河主計殿一隊大砲打方共小具足陣羽織手鎗ニ南向ニ並居御先手
 同心ハ込筒向に之方ハ藝州方之警衛人數騎士同心八拾人程並居
 前大納言様赤地之錦之金ミお菊之模様之様ニ奉拜御甲冑と相見則被爲
 召之

出御被遊候御右之方御幕張外食違ひ之所ハ小十人組頭小十人組山中嘉
 兵衛左之手首を受持出し寺山鞆負罷出益田右衛門介首披露引續西村清
 次郎持出福原越後首と披露引續國司信濃首と披露畢
 入御被遊美濃守殿退座引控いき一同退座之事

御書院方庭五間程隔壹ノ御番所と相唱則四番大御番組持場といつても陣羽織鉢巻を相勤前顯之通三人之首ハ去ル十三日吉川監物宍戸九郎右衛門持參仕候是ハ長州家老之其砌ハ藝州菩提所ニ有之隼人正殿御預りニテ大御番組寄合組打込御番ニ罷出候事

○十二月廿八日出藝州方之來狀之内

于時石河佐渡守殿千賀與八郎殿西筋方著被仕候山口萩も城を明ケ申候由五卿もそれ〱御預相成候由ニテ今日之處先々來四日

御發駕と相成申候由大坂立寄無之

御上京ニ相成候由御道中京迄十五日振

御旅行之由先々能キ具合ニ相成申候付御風意聽申上候

一廿四日歩兵銃調練稽古之處

前様 御覽被遊光太郎ニ 御向ハ先生達之手續見セ吳候様

御意有之候付銃陣世話役成田善藏佐藤三之丞山高松平辻銃太郎渡邊市

三郎青木金六郎森新十郎ハ七人手續仕光太郎号令仕候又廿六日

御覽又先生達之手續見セ吳此比之手續之外致し候様ニ御沙汰ニ付又光

太郎号令仕候其後同心稽古光太郎仕候得ト大先生之稽古之所見よと御小

性御小納戸ニ向ハ

御意有之

御前も私之前ハ 御立被遊暫ク

御覽被遊難有事ニ御座候種々御尋之儀言上仕候事始ルニテ前代未聞之

事ト奉存候奥向勤之様成心持ニ相成申候廿八日奥之稽古有之候付罷出

申候

一諸家御警衛御暇出廿七日

御殿ニテ御料理被下皆々國々ハ御歸し被遊候由ニ御座候

來年元旦方一二三四と發足

壹番立

寺尾土佐

一隊分七番

鈴木嘉十郎

一隊分二番

附 美

貳番立

成瀬隼人正

三番立

高木作十郎

一隊四番

御秘事一隊

御簇方

御當日御供之内

御先廻り之輩

四番立

御簇本

五番立

山村多門

一隊六番

御秘事一隊

御當日御供之内

御跡立之輩

六番立

石河佐渡守

御當日御供之内

御跡立之輩

傍線ノ符号ハ
原朱書

右之外御模様次第
御先の追々出立

尾州の直之行

七番立

石河主計

一隊三番

間宮外記一隊五番

藤村庄太郎廿九日立

中山虎吉同

藤江逸平治同

御弓矢奉行

御鏡砲奉行同

御秘事二隊同

御職人共同

右之通ニ御座候書余重便京々可申上と申上洩候以上

十二月廿八日出ス

附

朱書加一番立へ入

京都の御使

大道寺主水

同御先勤

横井右近

箋

船路江戸御使

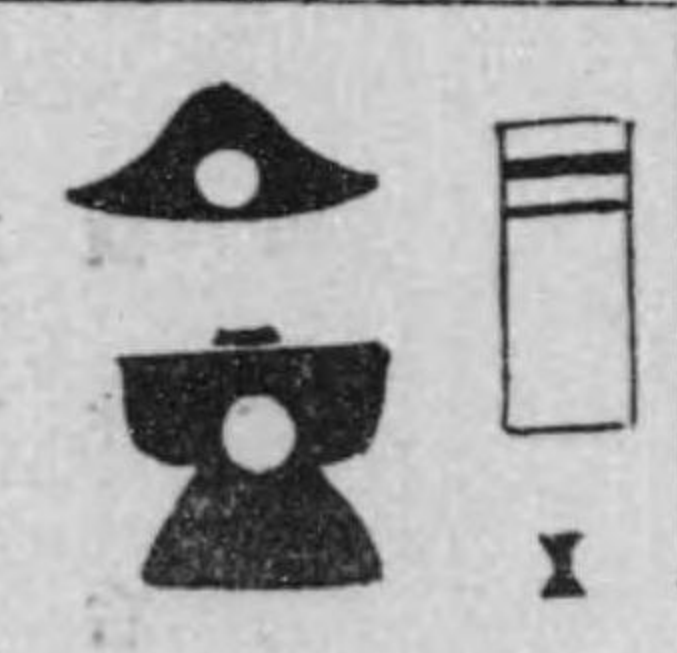
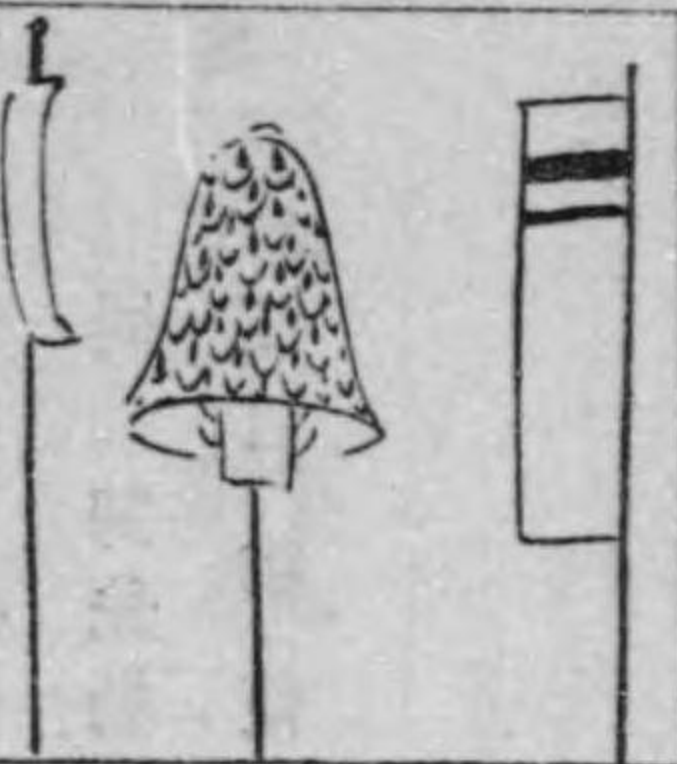
千賀與八郎

元治元年甲子十一月御參集

長防州 廣嶋御宿陣附

御惣督 六拾万九千六百名 尾州屋

尾張前大納言様



御本陣御殿 壹町目御門内

御本陣 御下 御家 御印 御印 御印 御印

同御附 三万五千石 尾州天山

成瀬隼人正様

御先陣方 五万石 備中松山

板倉周防守様



加藤外記様 桑野 龜様

同 十一万石 備後福山

阿部主計頭様




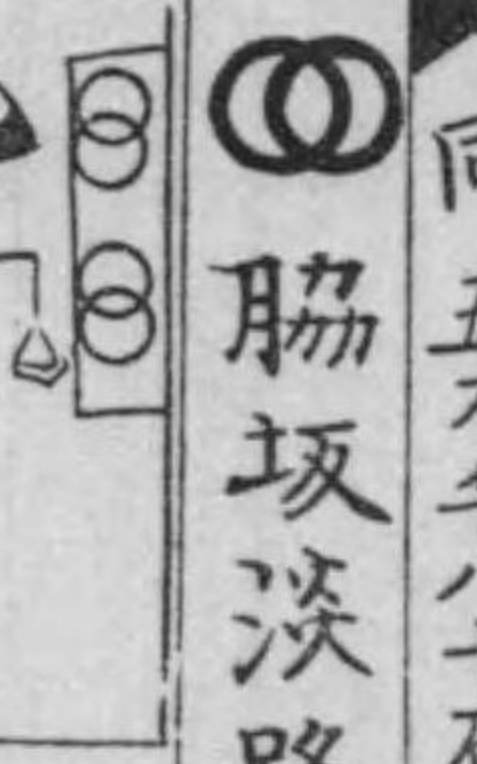
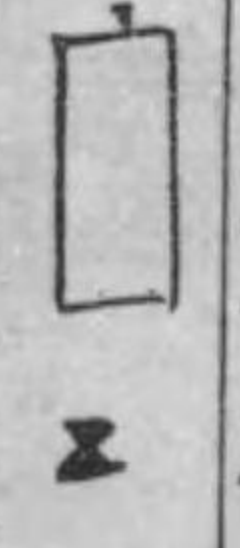
内藤鉤右衛門様 山岡次左衛門様


シマノ西福寺 大手一丁目 ヤカ村 平ツカ山ノ寺 妙エイ寺 細工丁 大手三丁目 廣嶋	龍川又左衛門様 渡邊新左衛門様 横井三太夫様 間宮外記様 鈴木嘉十郎様 石河竹次郎様 大河寺主水様 寺尾土佐様	△二千三百人 △一丁目御門内西南 △六丁目御坊共外不リ川丁へん丁家所々	石河佐渡守様 平佐々 與禪寺 松生院其外丁ヤ
--	--	---	------------------------------

△七千余人 東寺町 正清院 東寺まち中寺院不殘	同應援方 三万石 藝州吉田	松平近江守様	岡田直之助様 △二千余人 東白鳥早 白一白内寺院丁家不殘	同 二万三千石 作州勝山 備後守御旗 三浦玄蕃頭様
----------------------------	---------------	--------	------------------------------------	---------------------------------

御老中 十万二千石 山城淀	三浦滿衛様 戸村豊様 △千五百人 入京をし専立寺 口ひち寄光とく寺具外丁家不残
稲葉民部太輔様	板倉攝津守様 同 二万石 備中庭瀬
田邊權左衛門様 △七千人 入一丁目御門内東角 口普賢寺 満松院 教念寺 淨空寺 淨圓寺	渡邊壽吉様 △千四百人 入西寺町 淨専寺 口光福寺 徳應寺 善正寺
是ヨリ山陽道御討手御大名様方 御次第ハ御陣ニ前後ニ依御高ニ不拘	同 一万石 播州山崎
御先陣方 四十二万六千石 藝州廣嶋	本多肥後守様
御免	御多人數故其外ハ淺之又次第不問
△十万余人	□本安橋々京下し丁迄 寺々丁家残所あり

御老中 十万二千石 山城淀	池田出羽様 池田伊賀様 △二万三千人 入中嶋誓願寺 口きおん丁 長束村 辺乃不知
稲葉民部太輔様	松平備前守様
田邊權左衛門様 △七千人 入一丁目御門内東角 口普賢寺 満松院 教念寺 淨空寺 淨圓寺	御二陣方 世二万五千石 備前岡山 口同福壽院 安樂院 西應寺
是ヨリ山陽道御討手御大名様方 御次第ハ御陣ニ前後ニ依御高ニ不拘	武間四良右衛門様 △七百人 入地方 持明院 口同福壽院 安樂院 西應寺
御先陣方 四十二万六千石 藝州廣嶋	松平安藝守様
御免	

 	<p>一番手 上田主 水様 △千二百人 寺西雅樂様 天野保之允様</p>	<p>若御國境迄御陣 △三千人 △惣御人數ハ御出陣之上ヨリ知ラレ</p>	<p>加賀中納言様御陣代 長大隅守様 加州 </p>	<p>△三千人 江波浦</p>
<p>同 五万千八十石 播州立野 脇坂淡路守様 </p>	<p>脇坂縫殿助様 △三千五百人 西寺町 佛護寺 口同乃寺坊圓を正善坊善正寺</p>	<p>公儀御役人様方 大御目附 一丁目御門内三位小路</p>	<p>永井主水正様 </p>	<p>五 </p>

<p>御目附 大手筋一丁目 戸川鉾三郎様 松平上總公様 </p>	<p>御軍目附御使番 松平左金吾様 向井左門様 小笠原權次郎様</p>	<p>一丁目御門内 同 同</p>	<p>紀州様 御加勢 富田甚左衛門様 尾分國前寺 三千人 </p>	<p>薩州様 高橋縫殿様 千三百人 中嶋 慈仙寺 </p>	<p>其外御加勢方數多ク有リ畧之</p>
---	--	---	---	---	----------------------

諸道ヨリ御討手方

御軍目附印

陸路 廿二万五千石因鳥取

石加 松平相模守様

ヨリ 六万石石加濱田

一番 松平右近將監様

四万三千石同 龜井隱岐守様

同 拾万石作島津山

二番 松平參河守様

十八万六千石雲松江

松平出羽守様

同 五万石越前九岡

有馬遠江守様

番 三万九千石伊豫今治 松平壹岐守様

水野采女様 服部中様 遠山左衛門様

海路 五十四万石肥後熊本

下路 細川越中守様

關 十五万石豊前小倉

一日 小笠原左京大夫様

一番 奥平大膳大夫様

同 一万石小倉新田

二番 小笠原近江守様

同 五十二万石筑前福岡

松平美濃守様

同 廿五万五千石肥前佐賀 松平肥前守様

同 六万石同唐津 小笠原佐渡守様

多賀鞆負様 曲淵鑄市様

一 岩瀬敬太郎様

七十七万石薩摩鹿兒嶋

松平修理大夫様

應 七万石肥前嶋原

松平主殿頭様

同 廿一万石筑後久留米

二番 有馬中務太輔様

立花飛騨守様

同 天野茂七郎様

平岩金左衛門様

内藤平八郎様

應 一万石同母里 松平主計頭様

三万石雲松廣瀬 松平佐渡守様

内藤彌左衛門様

大嶋主殿様

朝倉小源太様

四國 廿五万七千石阿波徳嶋

松平阿波守様

ヨリ 拾五万石伊豫松山

一番 松平隱岐守様

同 十二万石讚岐高松

松平讚岐守様

二 十一万石伊豫宇和嶋

伊達遠江守様

三浦玄蕃頭様

御高二万三千石
作劔勝山御城主

御本陣

専立寺

御下陣

長安院寺
光源寂光寺
淨光寺

板倉攝津守様

御高二万石
備中庭瀬

御本陣

淨専寺

御下陣

光福寺
善徳正應寺

松平備前守様

御高三十一万五千二百石
備后岡山御城主

御本陣

誓願寺

御下陣

超専寺
元成寺
其外町家
り巷へがさし

脇坂淡路守様

御高五万八千九百石
播州龍野御城主

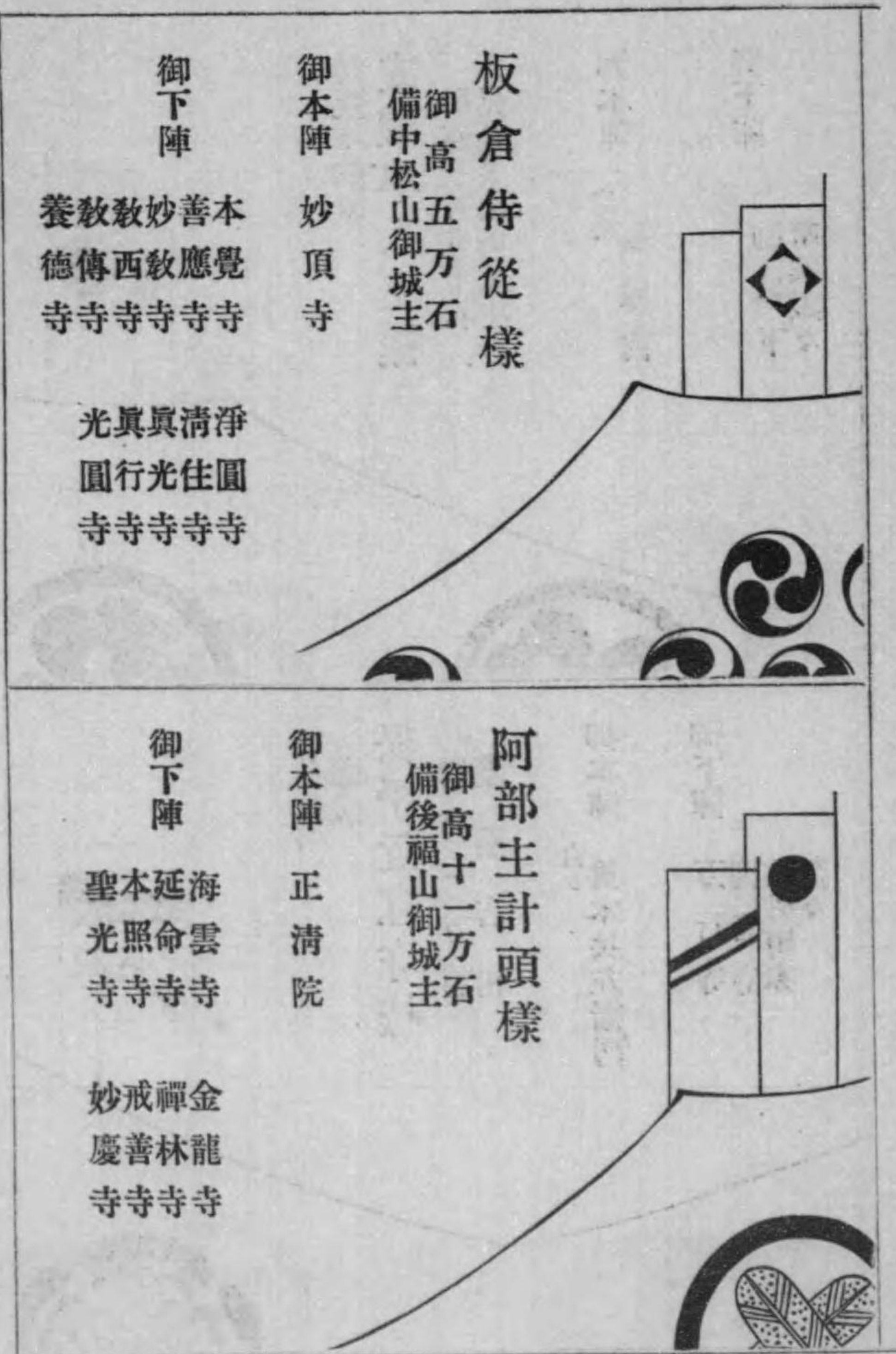
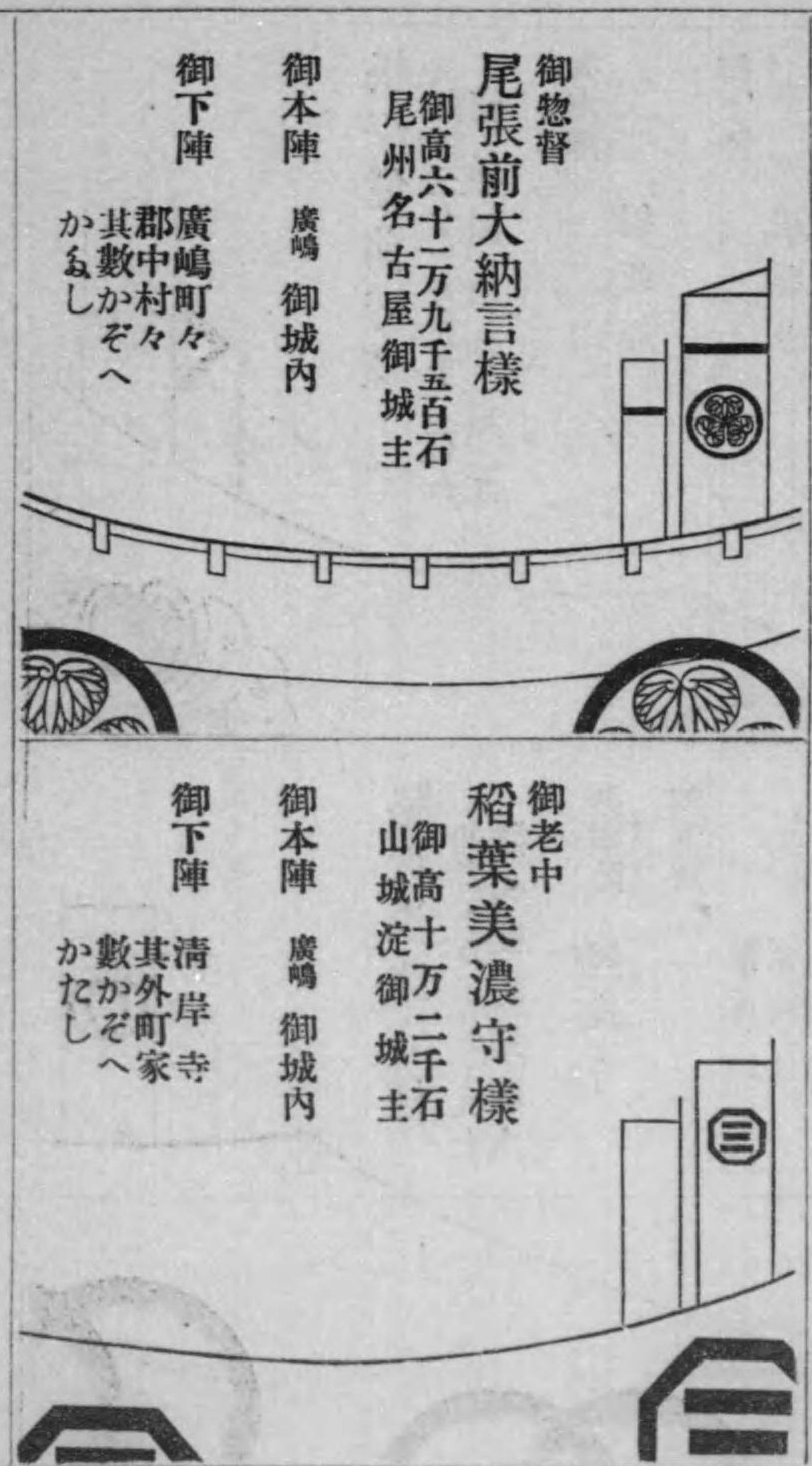
御本陣

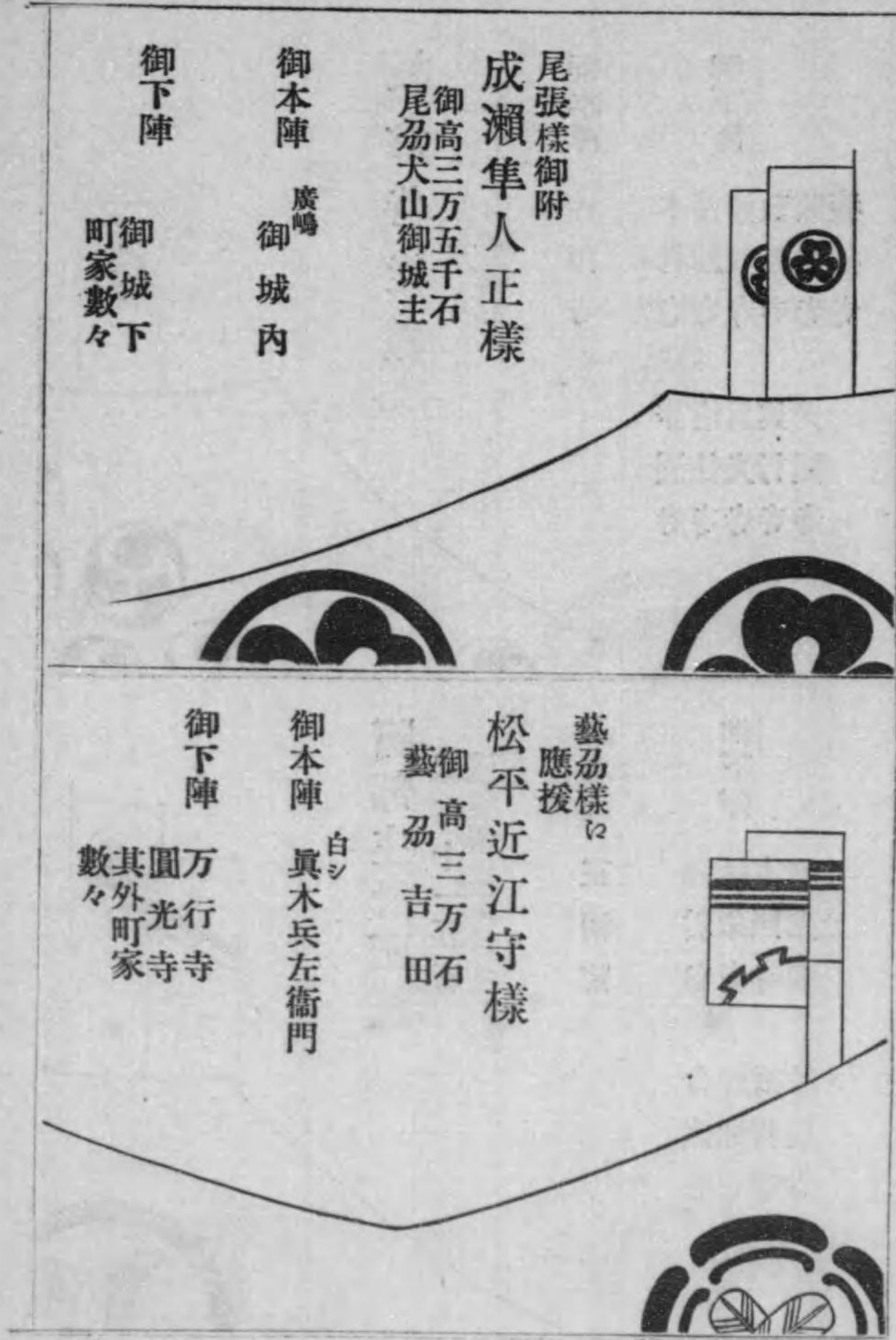
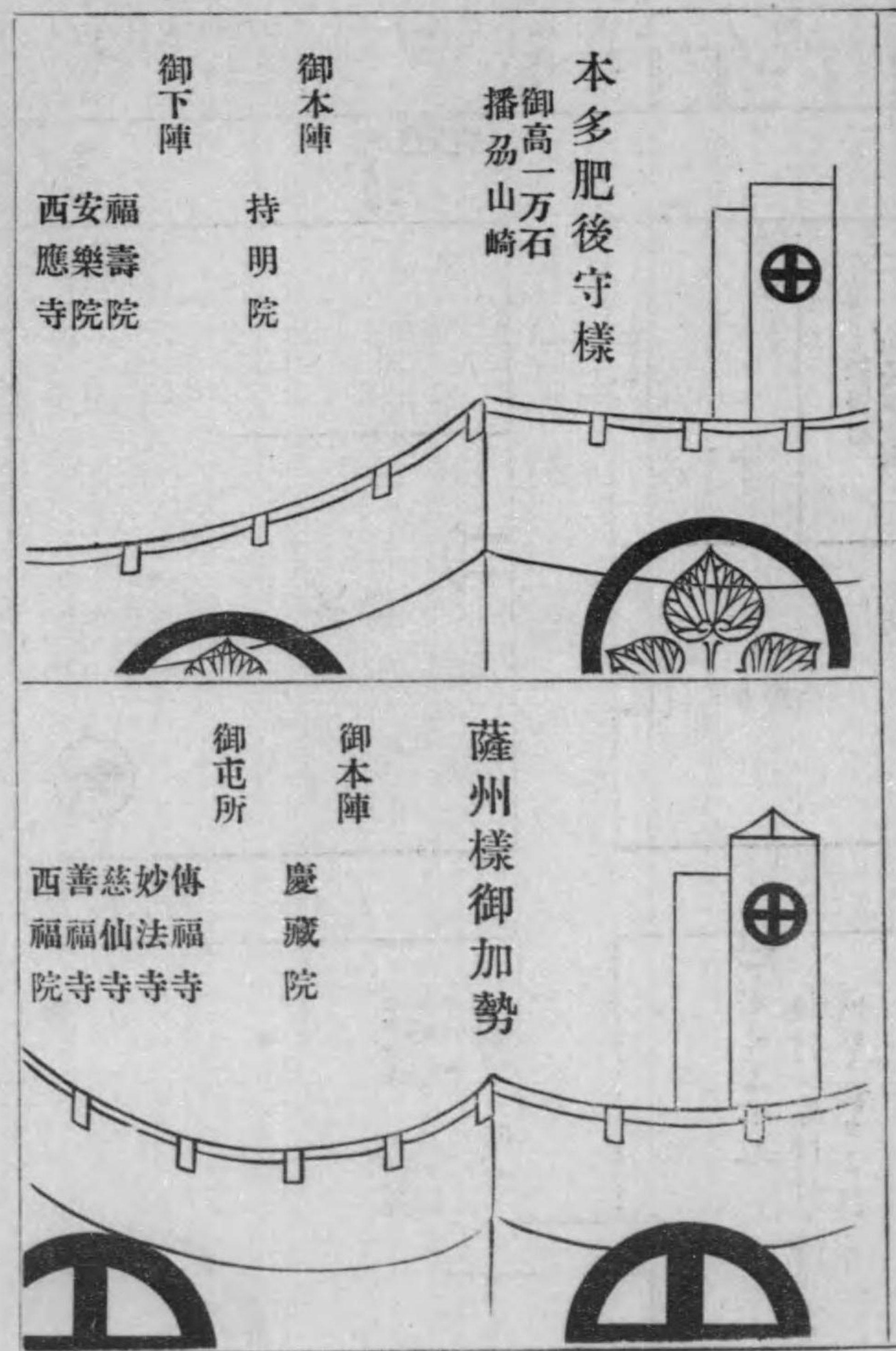
佛護寺

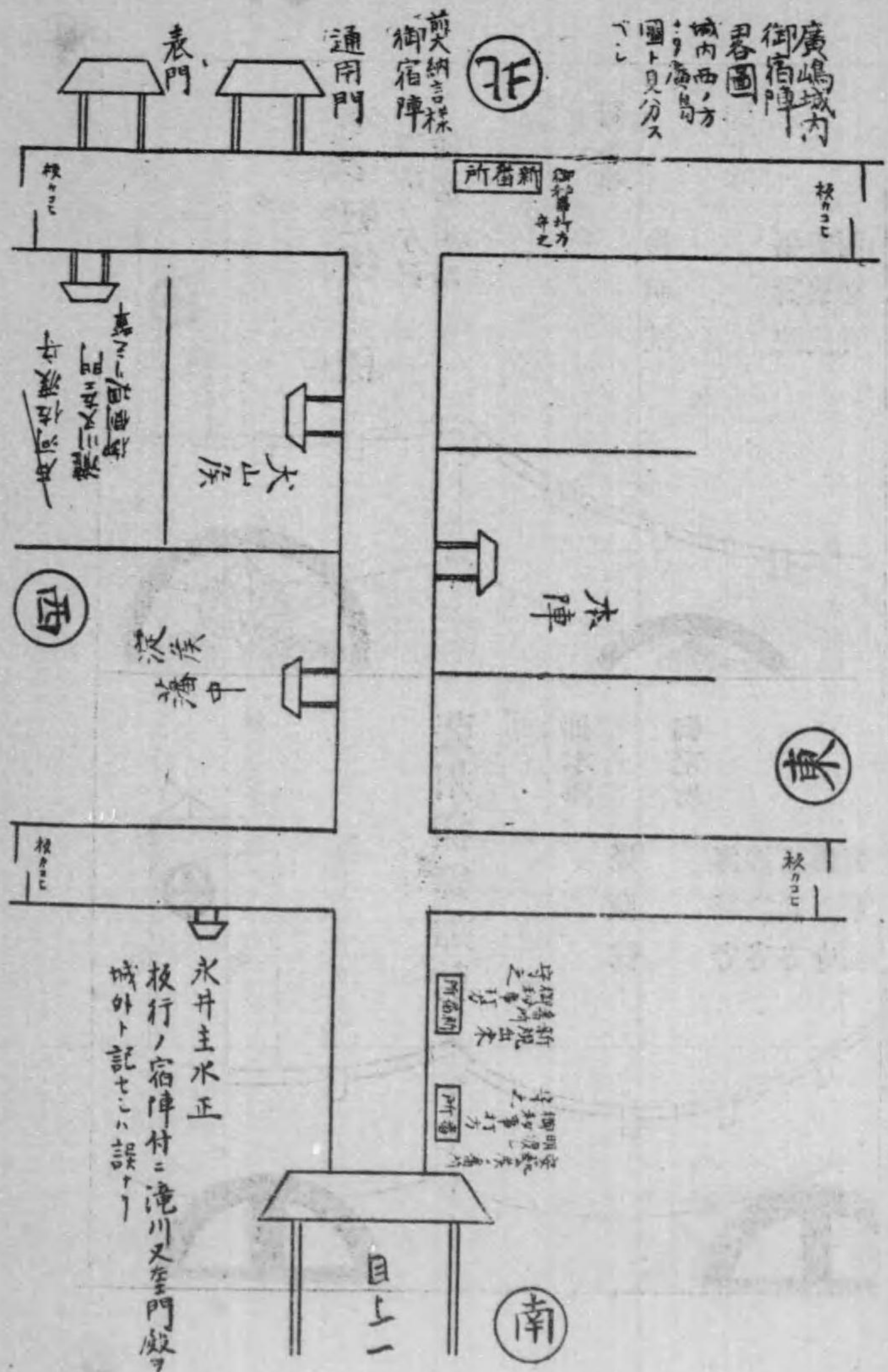
御下陣

報善坊
正龍寺
圓龍寺
成品満寺

元治元年甲子十一月安藝廣嶋御入 御本陣所







○濱田をぬし

天は轟く雷さんよりもタイソ身の毛よごちう大筒火事の音數万の泣聲々
 ントく婆々さんぬまれてアイタ〜アイタ〜アイタ、タ
 下女のすゆそぶりではんりゆきやうぬれせおれ火事すいべ若イ衆の大
 キナ道具をぬら〜とふんどしおとしてやんと〜のぞいてへのこが
 ほう〜まふあひあひしよ〜
 るけで野宿の娘さんと息子ドンヨ大筒をらきて、チ、コ、ハさんまがみつき思
 のまふまはまきうと〜たりぬ顔見てよぬぞ〜ヨイ〜ヨイハイ
 ナ大火が懸じのもし渡し
 火事てよぬあぬお方の壹人もあひがアルヨ新地おるぬさんの十四五日丸
 るすまきつりうナ事でのナイカ〜御茶をく心配ナイン〜まふあひ内證まふ
 あひよ

ぼんの十九日の朝五ツ時火事ヨ大筒小屋のイッテおたぬしやてん得の音

日十一月十八日長防定是居おあり

前田中納言

座本

若玉月要

後

京都 假名手本忠臣藏

白雪 赤紅

石堂右馬九	尾張前大納言	大星力弥	松平長門守
寺園平石工門	松平淡路守	小山田小平次	松平伊豆守
近者平六	伊達遠江守	大藤雛八	紀伊中納言
一力仲彦	大村丹後守	仁木多門分	松平讚岐守
下女工	小笠原大膳守	仲居おの	酒井左衛門尉
永代橋上	伊達陸奥守	同おの	井伊掃部頭
小林十内	京極佐渡守	料理人祐助	松平三河守
大月源吾	伊達若狭守	早野勘助	松平隱岐守
竹森善多八	木下備中守	天川心義平	稻葉美濃守
富森助左門	松平主計頭	小手十内	中川修理大夫
千崎弥五郎	宗平土佐守	如角之助	木下壹岐守
堀部安兵衛	松平對馬守	足輕傳兵衛	長岡良之助
不破數左門	松平筑前守	赤元台高	戸川三郎
桃井若狭之助			

小者七助	織田攝津守	谷九大夫	嶋津三郎
一力娘お花	松平壹岐守	藥師等次郎	有馬中務大輔
鷲攻平内	戸田采女正	ちよと前	吉川監物
尾木玄月	一橋中納言	中居おの	藤堂和泉守
淺野大守	毛利左京守	同おの	有馬日向守
赤徑傳兵衛	稻葉伊豫守	女房おの	酒井雅樂頭
マツと八	松平主殿頭	杉浦十平次	松平越前守
仲居おの	内藤能登守	五鼓目獅子	松平越前守
百姓與一兵衛	黒田甲斐守	大高源吉	松平阿波守
芥定九郎	松平出羽守	佐藤七	松平肥前守
夫玉重右即	佐竹左京大夫	切古川本藏	松平安藝守
高師直	上杉肥後守	早野勘平	松平備前守
天川也	立花左近將監	娘小浪	松平前守
大星天三郎	益田信正	鹽谷判官	水戸前守
浄瑠璃	福原越後	女房おの	松平相模守
大星由良之助	毛利大膳大夫	狂言作者	横濱交易
長州征伐	大名困窮	同	外國五大洲
三原	細川越中守	頭	諸國浪人
原	千秋万歳樂大		下向七
	深入不可		御

の得んとく火の子がタントく
 住し家く諸道具見捨ニケとくをそあせりやソッ皆さんけがハかいミカタ
 ガナイソく野宿がたんとく
 下女のおあべどんがはんぢうほさま冠りハイほうき壹本持くチャッヨ
 御出陣もてじやあみぞく丁稚の天窓をポントく
 京の大火の真取中みドン大筒引る大勢のとたの聲陣り太鼓がちや
 んどんとくあ貝ふくのがぶうく
 ほんさぬうはまへく釣鐘堂を詠めハンシヨとしが辨慶あソッサヨせをい
 く行本尊焼てもあんあみく大黒むりりの大事々々
 ながし六條さんの御氣のどくあ事じやマイト七年已前ニヲミ堂又焼さ
 田舎のお方のあんとくあまごを流しくチ、セイく
 上の長者町下七条のハテ東加茂川チ、サ堀川でよふくとまけくあんし
 んく家敷の四万トハチく

○甲子七月十九日焼之内ニおわく

能組

御固ハモウ

翁

木材無性ニ

高砂

大筒よく洛中

放下僧

丸焼く逢ふて

道成寺

町家を焼のハ

殺生石

焼出されし

野守

晴雨共火送り

御城書二

商賣ハ頼と

千歳

丸焼くぶうで

三番叟

施行貰ひよ

今參

檀家が焼く

布施あみ經

こふくこぶら

業平餅

騒動あみ

疲松

後日

何國も同居人

蟻通

東本山焼るハ

阿漕

時節の直るを

松風

焼出され

百萬

西本山ハ毎も残りよハ

芭蕉

諸國

乱

鏡砲るよハ

鞆猿

大筒とハ

武悪

諸人多ク

啼厄

御所とハ

悪坊

施行をあてよ

居机

此上ハ

唐人角力

廿四日申之下刻ニ火ハ

當摩 浮祝言

始り 辰上刻

○甲子十月於京都御目付觸

關白

大臣

宮方

右之御方々御通行御行逢之節乘輿之大納言中納言オ不及下乘宰相以下
ハ下乘禮節之事

但公卿殿上人歩行之節ハ是迄之通禮節有之候事

攝家之大中納言以下

右之御方々御行逢之節ハ公卿之御方々乘輿步行共行違札節無之事

殿上人ハ下乗ニ礼節有之事

攝家之殿上人

右之御方々乘輿ニ御通行之節公卿衆ハ行違

但公卿衆歩行之節ハ攝家之方下乗ニ礼節有之事

堂上之殿上人ハ乘輿并步行共行違ニ礼節無之事

堂上之公卿

是迄之通相互ニ禮節有之事

但相互ニ乘輿之節ニ禮節無之事

歩行之殿上人ニ逢候節ニ行違ニ不禮節之事

殿上人

是迄之通相互ニ禮節有之事

歩行之公卿ニ逢候節ハ下乗ニ不禮節有之事

六位藏人

是迄之通

攝家門跡

僧正

公卿殿上人ハ行違之節乘輿并歩行共行違ニ不禮節無之事

僧都

歩行之公卿ニ逢候節ハ下乗禮節有之事殿上人ニ行違候節ハ禮節無之事
本願寺以下同列

僧正

乘輿之公卿ニ逢候節行違禮節無之事

歩行之公卿ニ逢候節ハ下乗ニ不禮節有之事

乘輿并歩行之殿上人ニ行違候節不禮節之事

僧都

乘輿之公卿ニ逢候節ハ行違不禮節之事

歩行之公卿ニ逢候節ハ下乗ニ不禮節有之事

殿上人ハ公卿ニ同

徳川家

公邊其時之御官位ニ依る前顯堂上之禮節ニ准し候事

諸大名高家

御三家御三卿初堂上之同格之相互之礼節之事

非藏人

地下官人

旗本

公武諸家來

以上堂上并諸大名之行逢候節下乗下馬いふし候事

但供之節も同斷

一肩衣小袴着用之堂上之行逢候輩下乗下馬之不及

一羽織着用之諸大名行逢候節堂上之不及礼節候事尤羽織躰之諸大名方下

馬下馬乗カ之礼節可有之事

○長藩儀弥

朝敵と相成長州征伐被 仰出

前大納言様御惣督被爲蒙 仰候処御病中之御儀之る一旦御斷相成候処

又々再應之

台命被爲請無御余義 御進發之相成御上京之上御參

内被遊 天盃御杯御頂戴 察御馬真御太刀をも 御拜領之相成 公邊

かも白羅紗御陣羽織金御裁配 御拜領遊し夫々大坂に被爲入暫御逗留遅カ

之上弥々西筋に向 御新發之相成藝州に御著陣御旅館おゐる三士之首

級御實檢御出立

長州之家臣益田右衛門介初三士之首級 御實檢被遊候節之覺書

一元治元年十一月十八日未上刻藝州之老臣淺野右近上屋敷おゐる御陣營

右衛門介としめ三士之首級 御實檢

前大納言様御書院中御座之南向に

立御其御出立之青地之五色之菊折枝模様之御鎧下之小金拵之御太

刀を御帶し被遊御右之方之金御裁配奥向持之御左之方之御篲九流

御馬印御陣鐘御陣太鼓等御飭付御後之方之虎之御敷革奥向持之同所

入側御右之方ニ御老中稻葉美濃守殿モミ烏帽子ニ黄地ニ青ニ模様付ル錦之甲冑下ニ毛太刀を帶腰ニ銀之裁配を差著座少引下り大目付永井主水正殿錦之鏡下ニ太刀を帶小具足ニ軍扇を持著座次ニ御目付戸川絆三郎殿永井同様之出立ニ著座御左之方ニ成瀬隼人正殿モミ烏帽子小具足猩々緋之陣羽織ニ太刀を帶軍扇持著座少し引下り佐渡守殿次ニ五左衛門殿新左衛門殿外記殿嘉十郎殿與八郎殿其外御用人奥向之輩きゞ星の如く各陣羽織小具足亦ニ著座右御椽類ニ近松彦之進初御旗奉行三人御目付壹人御徒目付組頭壹人同左之方ニ御目付四人御徒目付組頭三人各陣羽織小具足後鉢巻其外思ひ々々の出立ニ著座御書院東西ニ御幕張右内ニ御徒目付左右ニ五人ツゝ御固メ御幕張外ニ大御番組三番石河主計殿一隊何を汝小具足陣羽織うしろ鉢巻手鏡ニ御警衛同所右横之方ニ三番組附屬御先手物頭貳人同心四十人何を小具足鉄砲切火繩込筒ニ相固同所南西之方ニ藝州公御人數何を

も小具足陣羽織手鏡鉢砲騎士共百人程警衛御書院南向ひ之方ニ御庭五間程相離書院ニ大御番組四番高木作十郎殿組廿人程小具足陣羽折後鉢巻ニ相固右御庭御幕張喰違ひ北之方々小十人組山中加兵衛矢張小具足陣羽織ニ左之手ニ首を請右之手ニ髪之毛をけり持出片膝を付候節御目付寺山鞆負青黄おどしの胴巻ニ小具足陣羽織軍扇を持益田右衛門介首と披露次ニ矢張小十人組土井八五郎山中同様出立ニ首持出是も鞆負が福原越後首と披露次ニ土井同様ニ西村清次郎首持出候得と鞆負り國司信濃首と披露終入御被遊引續美濃守殿初退座之事

一前条三士之首ハ去ル十三日長州之老臣吉川監物持參同夜内見之上成瀬隼人正殿御預りと相成寄合組大御番組兩役して首級御警衛番相勤藝州公菩提所國泰寺と申所ニ有之十八日御實檢後吉川監物の首級被下候事右条々中々以筆紙ニ難盡候付荒増書誌申上候以上

元治元年十一月十八日

同夜御宿陣御警衛御番所ニ志之四番組子

○三士の辭世

今更ニ何あや^{本ノマ}りまん空蟬のよ花とあしきの名の代る世ふ

右衛門介

同人の話世^{辭カ}今様

人ハ死ぬ時死ナざれハ死ナぬハはさる耻有ク世の諺も余所あふ後せ
まる此身をいりよせん

くるしはハたゆる身あぐ夕烟空ニ立名のきゆる

越後

きのふ々ふあはりの川の世の中ニ浮瀬ニ立ハ我身ありたり

信濃

東西紀聞第二終

役員

副總裁 侯爵 蜂須賀 茂 韶

會長 赤司 鷹一 郎

幹事長 中原 邦 平

幹事 岩崎 英 重

幹事 早川 純三 郎

顧問

侯爵 松方正義 伯爵 土方久元 公爵 鷹司 熙通

公爵 九條道實 侯爵 蜂須賀 茂韶 侯爵 木戸 孝正

侯爵 徳川義親 子爵 金子堅太郎

評議員

子爵 三島 彌太郎 子爵 小笠原 長生 男爵 尾崎 三良

男爵 澁澤榮一 文學博士 萩野由之 原六郎
 原保太郎 德富猪一郎 早川千吉郎
 豐川良平 加藤正義 男爵 大倉喜八郎
 大谷嘉兵衛 小牧昌業 中原邦平
 小松原英太郎 文學博士 三上參次 赤司鷹一郎
 朝吹英二

會員名簿

(次第不順)

大正六年三月二十日現在

侯爵 松方正義	侯爵 蜂須賀茂韶	伯爵 土方久元
侯爵 黑田長成	子爵 金子堅太郎	男爵 尾崎三良
公爵 嶋津忠重	公爵 嶋津家	公爵 毛利元昭
子爵 吉川元光	侯爵 山内豐景	侯爵 前田利為
侯爵 細川護立	侯爵 池田仲博	侯爵 池田禎政
有馬 賴寧	公爵 九條道實	公爵 伊藤博邦
侯爵 木戶孝正	男爵 三井八郎右衛門	男爵 岩崎久彌
小松原 英太郎	原 六郎	男爵 澁澤榮一
豐川 良平	早川 千吉郎	高田 慎藏
川崎 八右衛門	男爵 南都 夔男	宮内省臨時編修局
久原 房之助	公爵 徳川 家達	子爵 大久保 忠一
原 保太郎	侯爵 伊達 宗陳	小牧 昌業
大久保 利武	文學博士 萩野 由之	文學博士 三上 參次

赤司應一郎	中 原 邦 平	國學院大學
伊 東 祐 毅	村 井 吉 兵 衛	加 藤 正 義
桐 島 像 一	東京帝國大學圖書館	石 本 鑽 太 郎
德 富 猪 一 郎	富 田 幸 次 郎	村 井 貞 之 助
神 宮 奉 齋 會	男爵 岩 崎 小 彌 太	公爵 鷹 司 熙 通
西 村 秀 造	男爵 藤 田 平 太 郎	伯爵 井 伊 直 忠
川 上 直 之 助	帝 國 圖 書 館	內 池 三 十 郎
法學博士 上 杉 慎 吉	東京高等師範學校	男爵 田 邊 密 藏
第一高等學校	中 山 正 善	男爵 嶋 津 久 家
東京高等商業學校	東北帝國大學圖書館	第二高等學校
侯爵 井 上 家	木 村 清 四 郎	成 田 圖 書 館
渡 邊 千 秋	伯爵 松 浦 厚	伯爵 寺 內 正 毅
宮 崎 圖 書 館	男爵 近 藤 廉 平	伯爵 德 川 達 道
男爵 住友 吉 左 衛 門	京都帝國大學文科大學	廣島高等師範學校
山 內 一 次	男爵 牧 野 伸 顯	公爵 三 條 實 憲

前 川 一 郎	靖國神社社務所	小 柳 津 要 人
林 民 雄	華 族 會 館	神 田 鐺 藏
法學博士 水 町 袈 裟 六	工學博士 須 田 利 信	貴 族 院
公爵 一 條 實 輝	學 習 院	衆 議 院
圖應長塾 田 中 一 貞	南葵文庫主幹 齋 藤 勇 見 彦	高 橋 義 雄
男爵 大 倉 喜 八 郎	佐 藤 範 雄	朝 吹 英 二
長 岡 圖 書 館	大 橋 圖 書 館	侯爵 西 鄉 從 德
池 田 謙 三	子爵 三 島 彌 太 郎	辰 澤 延 次 郎
菊 池 晋 二	周 布 公 平	第六高等學校
伯爵 酒 井 忠 道	野 崎 廣 太	赤 星 鐵 馬
樞 密 院	東北帝國大學農科大學	陸 軍 省
米 澤 圖 書 館	田 中 留 吉	大 谷 嘉 兵 衛
茂 木 惣 兵 衛	平 沼 久 三 郎	井 上 準 之 助
山 川 勇 木	原 富 太 郎	小 野 光 景
增 田 增 藏	桃 井 可 雄	金 子 元 三 郎

東京商業會議所

大阪天滿宮社務所

武岡 豐太

子爵

安田 善三郎

侯爵 德川 義親

福原 八郎

小笠原 長生

田村 市郎

森田 金藏

岩崎 英重

高知縣立圖書館

早川 純三郎

教育總監部

井野邊 茂雄

川田 豐太郎

山口 圖書館

岡上 爲右衛門

川田 文庫

安田 善雄

男爵 中島 久萬吉

杉山 四五郎

奈良女子高等師範學校

法學博士 三浦 新七

宮本 仲

神宮 文庫

第三高等學校

藤山 雷太

井原 豐作

三井家編纂室

淡中 孝八郎

小川 多一郎

博文館編輯部

神崎 一作

維新史料編纂會

伯爵 堀田 正恒

京都 圖書館

岡松 參太郎

神戶高等商業學校

高頭 仁兵衛

吉野 周太郎

早稻田大學圖書館

渡邊 勝三郎

法學博士

吉野 周太郎

男爵 大森 鍾一

箕田 長三郎

子爵

花房 義質

男爵 穗積 陳重

子爵

久世 廣英

新庄 金生

西山 亮三

男爵

都筑 馨六

愛甲 兼達

清海 復三郎

土井

榮

山口 恒太郎

河野 巖男

森本

信富

南 義二郎

小野 金六

今村

繁三

小倉 久兵衛

成瀬 正恭

市川

文藏

子爵 渡邊 國武

渡邊 治右衛門

子爵

渡邊 千代三郎

若尾 幾造

白根尋常高等小學校

堀

啓次郎

芝川 又右衛門

佐々木 勇之助

子爵 金光 鑑太郎

秋

美濃部 俊吉

橫山 章

子爵 加藤 泰秋

秋

男爵 岩倉 道俱

子爵 松平 定晴

辻

忠郎兵衛

日高 榮三郎

植木 平之允

川崎

芳太郎

西脇 濟三郎

竹村 與右衛門

古谷

久綱

本間 光彌

貝島 太助

上野

理一

上山 滿之進

李 王 職

南波

禮吉

男爵 古河虎之助
 法學博士 石渡敏一
 男爵 島村速雄
 根津嘉一郎
 男爵 目賀田種太郎
 大川平三郎
 藤野龜之助
 伯爵 田中光顯
 山下龜三郎

第四高等學校
 中川小十郎
 澁澤義一
 會津會
 田丸稅稔
 服部金太郎
 各務幸一郎
 諸陵寮

工學博士 團琢磨
 伯爵 伊達宗基
 京都帝國大學圖書館
 醫學博士 佐々木政吉
 本山彦一
 東宮御所

文部省
 上野勝啓

大正六年三月二十日印刷
 大正六年三月廿五日發行

東西紀聞第二

（非賣品）

編輯兼發行者 早川純三郎
 東京市京橋區新榮町五丁目三番地
 日本史籍協會代表者

印刷者 榎山定吉
 東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷所 友文社印刷所
 東京市神田區三崎町三丁目一番地

發行所 日本史籍協會
 東京市京橋區新榮町五丁目三番地



不許
 複製

328
379

終

